



図工だより

令和6年 10月2日
江東区立臨海小学校
図工だより 6号
校長 羽藤 めぐみ
図工専科

早く持ち帰りたいんですけど

「先生、この作品はいつ持って帰れるんですか？」と子どもたちに聞かれ、「展示したいから1ヶ月後くらいかな」と答えると、「えー！早く持って帰りたいんですけど！」と予想外の反応でした。校内で展示されて見てもらうよりも、家に持って帰ってお気に入りの場所に飾りたかったようです。

自分でつくった作品に対して愛着をもつことは、とても素晴らしいことです。お気に入りの作品となって「早く家に持って帰って家族に見せたいな」「部屋のあの辺に飾ろうかな」「文房具を入れるのに使えそう」と、つくって終わりではなく、その先を考えてわくわくしてくれることに、指導している私も嬉しくなった時間でした。



各学年の活動

1年生

ピカピカの絵の具セットを持って図工室にやって来た1年生。早く使いたい！という期待感が伝わります。初めての絵の具セットで描いたのは色とりどりのキャンディーです。大きな画用紙にクレヨンで描いた瓶のなかが埋まるように、カラフルなキャンディーを描いていきました。「これはブルーハワイだよ」「抹茶味ができた！」パレットの上で絵の具を混ぜながら、自分だけの色ができあがり、夢中で瓶の中をキャンディーでいっぱいにした1年生でした。

2年生

大きなクラフト紙をくしゃくしゃさせて、「くしゃくしゃちゃん」をつくりました。「ぎゅっとしたくなるようなお友達をつくるよ！」と提案すると、「完成したらベッドに置こう〜！」とわくわくした様子。大きな目玉やリボンをつけたくしゃくしゃちゃんを何度も見つめて、「かわいい〜」とニコニコ笑う姿がとても微笑ましかったです。是非、お家でも大切に飾ってあげてください。

3年生

今年も初めてののこぎりに挑戦する季節がやってきました。遂に皆も、のこぎりを使うんだと伝えると、わくわくが止まらないといった顔の子もいれば、「怖い……」と引きつった顔を見せる子も。しかしひとたび活動が始まれば、皆一様に真剣そのものです。ギコギコとのこぎりを動かす度に切れていく木材に夢中です。片付けの時には、「先生、腰が痛いよ……」とへとへとになっていました。

4年生

3年生同様にのこぎりをを使った学習をしている4年生。昨年度の様子から比べて、なんてのこぎりを扱うのが上手になったのかと驚きました。それだけ、身体が大きくなり、腕の力や体重のかけ方も適切になったのだと思います。3年生から4年生への大きな成長を感じました。切った木材は釘打ちで組み合わせました。学校公開で展示する予定なので楽しみに。

5年生

5年生も遂に電動糸のこぎりの学習が始まりました。「やっと使えるのかあ」と感慨深げな5年生。「これなあに？」とキラキラとした目で、電動糸のこぎりを指さす当時1年生の子どもたちを私も覚えていたので、なんだか懐かしい気持ちになりました。「もっとお兄さんお姉さんになったら使えるよ」とあの頃は答えましたが、こんなに早くその日がやってくるとは、立派に電動糸のこぎりを使いこなす頼もしい5年生の背中に、胸が熱くなりました。完成が楽しみです。

6年生

長い長いズラシックワールドの活動を終えた6年生。次の活動は「白と黒の世界」です。細い黒のペンで表したいことを自分で見付けて表していきます。自己決定するのは、「何を表すか」と「どう表すか」です。「何を表すか」、つまりテーマを決めていくには自分の中の発想の引き出しの多さが大切になります。日頃から興味のあることや、「きれいだ」「不思議だ」と思うことを調べたり、クロームで調べた画像を保存したりして、頭の中のネタ帳を増やしていくと、これからの表現の活動に役に立つのではと思います。





授業の様子

1年生



瓶の中がカラフルな
キャンディーで埋ま
っていきます。

4年生

羽が動く仕組みに
なっています。
大きな翼がかっこい
い!



5年生

2年生

リボンも追加して、自分
だけのくしゃくしゃちゃ
んになっていきます。



糸のこで切った形を組
み合わせました。
色々な角度から作品を
見ます。

3年生



足でしっかり踏んで固定し
て、切っていきます。

6年生

まずはクロッキー帳に
下描きから。
細い線ならではの表現
です。

